

閉経前luminal Aに+αのリスクを有
する症例に対する
術後化学療法必要性について

St. Gallen 2011→2013

	Ki67 high	Ki67 low
PgR high	2011 St. Gallen Lum B	Lum A
PgR low	2011 St. Gallen Lum B	2013 St. Gallen Lum A → Lum B

背 景

- 今回の症例2のようにluminal Aとするには+αで少数の予後不良因子が入る症例において、化学療法を併用するかは非常に悩ましい。
- たとえば、PgR陰性だけが目立ち、他はluminal Aの基準を満たす場合など。

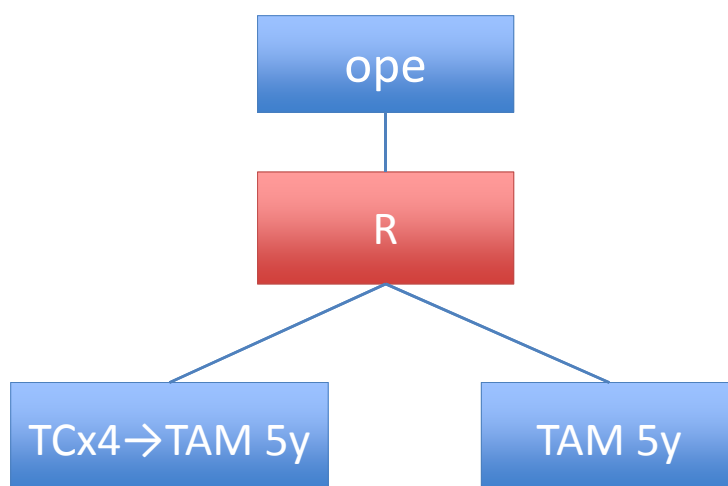
目 的

- Luminal A likeに近いが、St. Gallen 2013で提唱されたLuminal Bに当てはまる症例では、化学療法の追加が必要かどうかを調べる。
- PgRとKi67の陽性陰性をそれぞれ層別化して各々のサブセットも調べたい。

適格基準(骨格)

- 閉経前乳癌でER positiveかつHer 2 negativeで
- 以下の事項で満たさないものが1つあるいは2つある場合を適格に。
- cT1-2
- pN0
- PgR allred ≥ 5
- Ki67 < 15%

プロトコル



エンドポイント

- プライマリーエンドポイント
- DFS
- セカンダリーエンドポイント
- OS、妊孕性、副作用

課題

- 必要サンプル数に難があるかもしれない。
- 観察期間を長く取る必要がある。